

宮下克彦県議会議員との意見交換会

8月8日

県議会議員として3カ月余りの宮下議員。「諏訪の女性の活躍は素晴らしいと選挙戦を通じて思った。地区における女性区長、女性役員の登用には、地区の特性によっても差があるが自分の地元から改革していきたい。」と語られました。諏訪市の保育園の会長は女性ばかりなので、男性の登用等、当会で通年問題提起の事項に丁寧に答えていただきました。この他にも男性の働き方改革、LGBT、そして諏訪市が抱えている諏訪湖周全体に関する事、20号バイパス、スマートインター等これからの市の活性化に対する意見も話され、市民の方々がより県政に関心を持たれ意見を言ってほしいとの要望でした。



渡辺副市長との懇談会

11月14日

小諸市出身、県職員から副市長として就任。人事・産業・財政に携わっていたとの事ですので、このキャリアを諏訪市にも生かしていただけたと思います。県庁では、女性の部長や課長も増えているがまだまだ少ない。係長などからキャリアアップし、もっと多くなれば良いと思っているとの事でした。

ご実家がラーメン屋だったこともあり、幼い頃から家事等の手伝いをされていたようで、家事をするのはあたりまえで共働きでもあり、一緒にやってきたとお話でした。物静かな様子の副市長でしたが、気さくに話をして下さり、とても身近に感じられました。今後の男女共同参画への取り組みについても、さらなる期待をしています。



日本女性会議2019inさの

10月25日~27日

今年10月25日から3日間開催される予定だった「日本女性会議2019inさの」は、直前の台風19号の襲来により佐野市は甚大な被害にあい、実行委員の方々の苦渋の決断により急遽中止となりました。テレビで映し出される佐野市の様子は大変なもので心を痛めました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を願います。女性パワーで復興にまい進してください。そして、復興後には佐野市でもう一度、女性会議を開催してほしいと思います。来年は愛知県刈谷市で開催です。全国から集まる多くの方々との素敵な出会いを期待しています。



会員募集!!

「男女共同参画社会」の推進に向けて一緒に活動しませんか。

男女共同参画に関心がある方ならどなたでも大歓迎。日頃の活動が難しくても講座の参加だけでも構いません。お気軽にお問い合わせください。

編集後記

今年新しい時代「令和」の幕開けでした。いきいき市民推進チームでは様々な取り組みを通して、男女がそれぞれ社会の構成員として互いに責任と役割を果たすための啓発活動をしてきました。しかし意識の改革はまだ道半ばであり、更なる成果を目指して活動しております。この一年を振り返りますと、大雨や嵐による未曾有の災害を被り、今なお多くの方々が不便な生活を余儀なくされております。昨年は西日本で本年は東日本と、温暖化による気象の変化で今後はどこにでも起こりうると言われています。地震や台風による自然災害が実現になった時、一人ひとりがどのように行動したらよいか、家庭や地域における備えが大切です。防災についても男女共同参画の視点で取り組んでいきます。

男女共同参画情報紙



ともに生きる諏訪セミナー

「男が働かない、いいじゃないか！」

12/8 諏訪市総合福祉センター

日本では学校を卒業してから定年退職までの40年間は、何があっても男は働き続けるのが「当たり前」とされています。そのため多くの男性は「なぜ自分が働くのか」を考える機会さえありません。「男なら働くのは当たり前」「男が稼いで家族を養う」そんな男性の仕事中心の生き方を見直し、性別にとらわれない生き方、働き方を「男性学※」の視点から語っていただきました。「男性学」とは、男性が抱える悩みや葛藤を対象にした学問であり、今の働き方・生き方の問題点として、働き過ぎ、自殺・過労死を挙げられました。男性はたくさん働くという“異常”が“普通”になっていて、働いてさえいれば良いという意識を変えていかなくてはなりません。そのためには1日8時間、週40時間の労働が普通だという原則を立て、職場だけでなく地域や家庭・趣味に目を向けた居場所づくりが大切であり、是非実践して欲しいと力説されました。男性が働くことを否定するような刺激的なタイトルでしたが、講演は時にはユーモアを交え「男は仕事」「女は家庭」という長年の役割分担意識が「当たり前」という常識に切り込み、新しい男性の生き方を「立ち止まって考えてみて」と投げかけられました。講師の一言ひとことが胸に響いた講演会でした。



田中 俊之さん
(大正大学 心理社会学部人間科学科 准教授)

プロフィール

男性学の研究第一人者。厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員会委員、渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員として男女共同参画社会の推進に取り組む。

※男性学とは?

- ・男性学=男性が男性であるがゆえに抱える悩みや葛藤を対象にした学問
- ・1980年代後半以降に本格的に登場(1970年ウーマンリブ、1988年アグネス論争=流行語大賞・大衆賞)
- ・「男性問題」=働きすぎ、自殺、過労死・過労自殺、平日昼間問題、地域や家庭での居場所…
- ・性別が自分の生き方に与える影響を考える!

(12/8 諏訪セミナーの資料を引用)

～多様な性について考えよう～ 男女で担う生活サポート講座

今年度は「LGBT※」について
2回講座を行いました。

※LGBTとは

Lesbian(レズビアン / 女性同性愛者)・Gay(ゲイ / 男性同性愛者)・Bisexual(バイセクシャル / 両性愛者)
Transgender(トランスジェンダー / 性別越境者)の頭文字をとったもの

第1回

9月17日【諏訪市総合福祉センター】

LGBT啓発授業～当事者が語る現状と課題～

心と体の性別が一致しないトランスジェンダーの長岡春奈さんを迎え、自身の経験や性的少数者(LGBT)の現状を語っていただきました。

講演ではLGBTとは何かといった基本的なことから当事者の苦悩、近年の国や自治体の動きまでを紹介。そして、自身の経験を示しながら「いつまでたっても差別や偏見がある」「差別をなくすには支援者を増やすしかない」と訴えました。講座後ご参加された方から「理解が深まった。」「当事者の声を直に聞くことが出来て良かった。」などの意見を頂きました。

まだまだ認知が低いLGBTについて、今後も多くの方々に伝え、知って頂くことが重要ではないかと思います。

～プロフィール～

幼い頃から「男の子」として接されることに違和感があり、心と体の性が一致しない「性同一性障害」に苦悩。勤めていた職場を早期退職し、現在は講演活動に勤しんでいる。



長岡 春奈さん
(LGBT 啓発講演家)

第2回

11月29日【すわっちゃオ】

glorieux 歌とともに生きる



伊藤 ひよりさん
(シンガーソングライター)

スラリとした立ち姿が印象的なひよりさんのライブ。フリースペースに電子ピアノの演奏と歌声が響き、時々学校帰りの高校生が行きかう中でのコンサート。曲の合間に、人権や多様性について語っていただきました。歌った曲はひよりさんの自作の曲で、2020年1月に「beautiful song」を合唱曲として楽譜をリリース。私たちには馴染みのある曲ではありませんが、その歌声と歌詞に心打たれるコンサートでした。

～プロフィール～

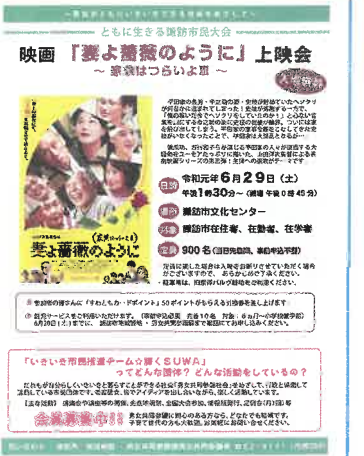
2017年シンガーソングライターとして活動。
2019年 BC リーグ戦信濃グランセローズ vs 石川ミリオンスターズの試合で国歌独唱。「子どもたちにいろいろな可能性を持ってほしい」を軸に歌と語りの人権教育を積極的に行っている。

ともに生きる諏訪市民大会 映画「妻よ薔薇のように」上映会 6月29日【文化センター】

例年2月開催でしたが、今年度より男女共同参画週間にあわせ6月開催となりました。男女共同参画社会を目指して、行政と協働して様々な活動を行うという主旨のもと、山田洋次監督「妻よ薔薇のように～家族はつらいよⅡ～」を上映しました。監督は“妻よ薔薇のように美しく”というメッセージを込めて撮影しています。妻であり母でもある三世同居の主婦がヘソクリを盗まれるという騒動の中、家出をすることから始まった物語です。家族の中心となる夫婦のありよう、いなくなって初めてわかる、妻が、家事が、どんなに大変かということ。夫からの心無い言葉。「俺があくせく働いているのに、お前は昼寝とはいい身分だな。」今まで正当に評価されていなかった主婦の家事労働を給与に計算すると、200万円超とも300万円超とも言われています。言葉や態度で感謝の気持ちを伝えたいもの。

上映後のアンケートでは、「家族の大切さを感じました。」「夫と一緒に観てもらいたかった。」「わが身の思い。」「妻の陰の力を再認識。」「そして「父に観せたい。」が刺激的でした。

来場者は60代・70代の方が多く、中には杖をつきながら来場して下さった高齢の方もいらっしゃいました。本当にありがとうございました。核家族化と個人主義優先の中、これからの家族の生き方や社会のありようが問われます。



視察研修 「しゃれんどきっず園」

9月11日



屋もあり、地域に開かれた保育園となっています。週7日対応しており、開園時間は午前7時30分から午後6時30分まで、働いている親が安心して預けられる施設になっています。

諏訪地域では初めてとなる企業主導型保育園「しゃれんどきっず園」を見学しました。茅野市横内にできたこの園は、木の香りが漂い、木造建築のためアレルギー体質の子どもにも優しい安全・安心に配慮された建物です。給食の食材も国産のものを使い、食器調理用具まで考えられています。8カ月から3歳までの子ども24名を受け入れる予定だそうです。親や地域の人々が利用できる部



男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

6月25日

東京国際フォーラムホールで全国会議が開催されました。今年は「男女共同参“学”」と「知る 学ぶ 考える 私の人生 私がつくる」というキャッチフレーズのもとで開催されました。片山さつき女性活躍担当大臣が国会開催中なので、代理の方が更なる女性活躍に向けての組の取り組みについて話をされました。次に地域でいろいろな活躍をされている3人の女性の事例発表があり、次に多様な選択を可能にする学びに関する調査報告、最後に「多様な選択を可能にする学びの充実」をテーマにパネルディスカッションがありました。

